

10月15日に 認知症市民セミナーが行われました

講演

認知症専門医が認知症の人から学んだこと

～認知症の診断と診断後支援の重要性について～



講師 石原 哲郎 氏

(脳と心の石原クリニック院長)

講演では、認知症の診断を受けるメリットや、診断を受けた後の*パーソン・センタード・ケアの理念に基づいた支援や関わり合い方について、また、認知機能の低下が疑われた場合は、薬剤の影響を考え、処方されている薬の確認と主治医への相談が必要であることをお話しいただきました。さらに、認知症と診断された方と、その家族の思いをまとめたインタビュー動画もご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、たくさんの質問に丁寧に回答いただき、参加者は認知症への理解をさらに深めることができました。

※パーソン・センタード・ケア：認知症を持つ方を一人の“人”として尊重し、その人の視点や立場に立つて行う認知症ケアの考え方。



セミナーに参加した方々の感想

・先生のお話は大変参考になりました。人の話を聞くことの大切さ、自宅介護することに対する接し方など、お話しいただきありがとうございます。(70代女性)

・多少とも先の不安が解消した気がします。(70代男性)

・認知症の方の生の声を織り込んだ講演であり、認知症をより身近に感じられるものだった。(50代女性)

・実際に先生が関わってこられた患者さんを通して、認知症の奥にいらっしゃる姿を見ることができました。ご本人にできること、やりたいことを支える側がしっかり把握していくことが重要かと思えます。本人が認知症と向き合う時間、家人が向き合っていく時間を作っていくことが地域の役割なのかなと思います。(30代男性)

・もし自分自身が認知症の症状に気づき始めたとき、どうしようという気持ちで聞いていました。素直に自分の気持ちを家族に伝えられるようにしたいと思います。(60代女性)

・認知症の診断を受ける側の心境、周囲からの見方が変わってしまうかもしれない恐怖など、あまり考えていなかった部分を知る機会になりました。関わり方によって、症状の進行を緩和できる方法があることを知り、施設利用される方だけでなく、家族や近所の方々にも当てはまるのを知る機会になりました。(30代男性)

・認知症と診断された方の声が聞けると、身近なことと怖い病気ではないと思えた方が多いと思います。(50代女性)

セミナーの内容は「グラフィックレコーディング」で書きまとめ、福祉保健センター廊下に展示しています。

問 あんしん長寿課 介護予防班
☎ 30・0103

まちの話題



ふるさと秋田 農林水産大賞受賞

11月22日に、J-Aかつのきゅうり生産部会の兎澤部会長らが関市長を訪れ、令和4年度ふるさと秋田農林水産大賞の受賞を報告しました。

これは県が、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者などを表彰するものです。

兎澤部会長は「今後も若い人を呼び込みながら、頑張っていきたい」と抱負を述べました。

関市長は「鹿角の質の高い農業の成果が評価された結果だと思う。今後も頑張っていきたい」と話しました。



「J-Aかつのきゅうり」

11月23日に、アルパスアリーナで、こどものまち「しごとーい」かつの2022が開催されました。

これは、子どもたちが主役となり、「まちづくり」の活動を通して「仕事」について、考えたり感じたりできるよう、市内の有志の団体が開催しています。

子どもたちは、「安いですよー、買いませんか」「15分働いたから3*とーい稼いだ」「5とーいあるので、それをください」などと、商品の制作や売買、稼いだお金での買い物など、仮想のまちでの体験を通して「働くこと」についての理解を深めました。

※とーい：イベント内で使用できるお金



八郎太郎三湖伝説 シンポジウム

11月26日に、感動鹿角パークホテルで八郎太郎三湖伝説シンポジウムが開催されました。

第一部では、前仙北市長の門脇光浩氏が、物語をたどった自身の旅の話を交えながら、三湖伝説の観光資源としての魅力について講演しました。第二部では、鈴木雄大氏(潟上市長)と田口知明氏(仙北市長)らが登壇し、広域観光の取り組みについて討論しました。

コーディネーターを務めた関市長は、「住んでいる土地を素晴らしいと思う気持ちの醸成や、伝説にかかわりのある地域間でのつながりを創出したい」と語りました。



鹿角市民俗芸能 フェスティバル

12月4日に、文化の社交流館コモッセで民俗芸能フェスティバルが開催されました。

大日堂舞楽と花輪祭の屋台行事に加え、11月30日に「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録された毛馬内の盆踊と、ともに登録された川西大念仏剣舞(岩手県北上市)と岩崎鬼剣舞(岩手県奥州市)の2団体を招き、計5つのユネスコ無形文化遺産が一堂に会し、伝統の演技を披露しました。

来場者は、出演団体すべてがユネスコ無形文化遺産という豪華さに心を奪われ、真剣な眼差しで公演を楽しんでいました。

